

こおり へか 郡遺跡・倍賀遺跡 発掘調査現地説明会資料

茨木市教育委員会・公益財団法人大阪府文化財センター



2084 木棺墓 (左) と 2085 木棺墓 (右) (西から)

2084 木棺墓は木棺の長さ約 2m・幅約 0.4m、2085 木棺墓は木棺の長さ約 1.6m・幅約 0.5mを測ります。2084 木棺墓から全身の様子がわかる人骨が見つかりました。2085 木棺墓からも人骨が一部見つかりました。

茨木市教育委員会と公益財団法人大阪府文化財センターは、茨木市松下町において、令和5年(2023)8月から郡遺跡・倍賀遺跡の発掘調査を実施しています。

今回の調査地は、郡遺跡の東端と倍賀遺跡の北端にあたり、旧茨木川の西岸に位置しています。今回の調査地の西隣、現在 Amazon の倉庫が建つ場所では、弥生時代中期に属する方形周溝墓が、およそ 160 基見つかりました。周辺の調査でも多くの方形周溝墓が見つかり、近畿地方でも群を抜く規模の墓域が形成されていることが明らかとなりました。また、弥生時代中～後期に属する竪穴建物群も見つかり、方形周溝墓群の東側に集落が展開していたことなどが明らかとなりました。

そのような経緯から、今回の調査地では集落の続きが見つかる可能性が高いことが予想されています。

今次調査区は、面積およそ 7,700 m²あり、中世と弥生時代の2面の遺構面を調査しました。現地説明会では、弥生時代の遺構面を公開します。

弥生時代の遺構面は、調査区の北東部分が旧茨木川の流路により失われていますが、これまでに竪穴建物 50 棟以上、掘立柱建物 1 棟、方形周溝墓 2 基、木棺墓 13 基など、弥生時代に属する遺構が足の踏み場がないぐらい濃密に見つかりました。遺物も弥生時代前期後半から後期前半(およそ 2,300 年から 1,900 年前)に属するものが出土しており、弥生時代を通じて人々がこの地に集落を営んだことが明らかとなりました。



2058 木棺墓 (南から)

2058 木棺墓は木棺の長さ約 1.8m・幅約 0.4mを測ります。棺内から管玉が 1 点出土しました。一部ですが人骨も見つかりました。



1791 木棺墓 (南から)

1791 木棺墓は木棺の長さ約 1.4m・幅約 0.5mを測ります。棺の中央部分を中心にガラス玉が 15 点以上出土しました。



2189 木棺墓 (南から)

2189 木棺墓は木棺の長さ約 0.7m・幅約 0.2mを測ります。棺の中央部分を中心にガラス玉が 25 点以上出土しました。



1791 木棺墓出土 ガラス玉

水色のガラス玉、左側の一目盛は 1mm。



2189 木棺墓出土 ガラス玉

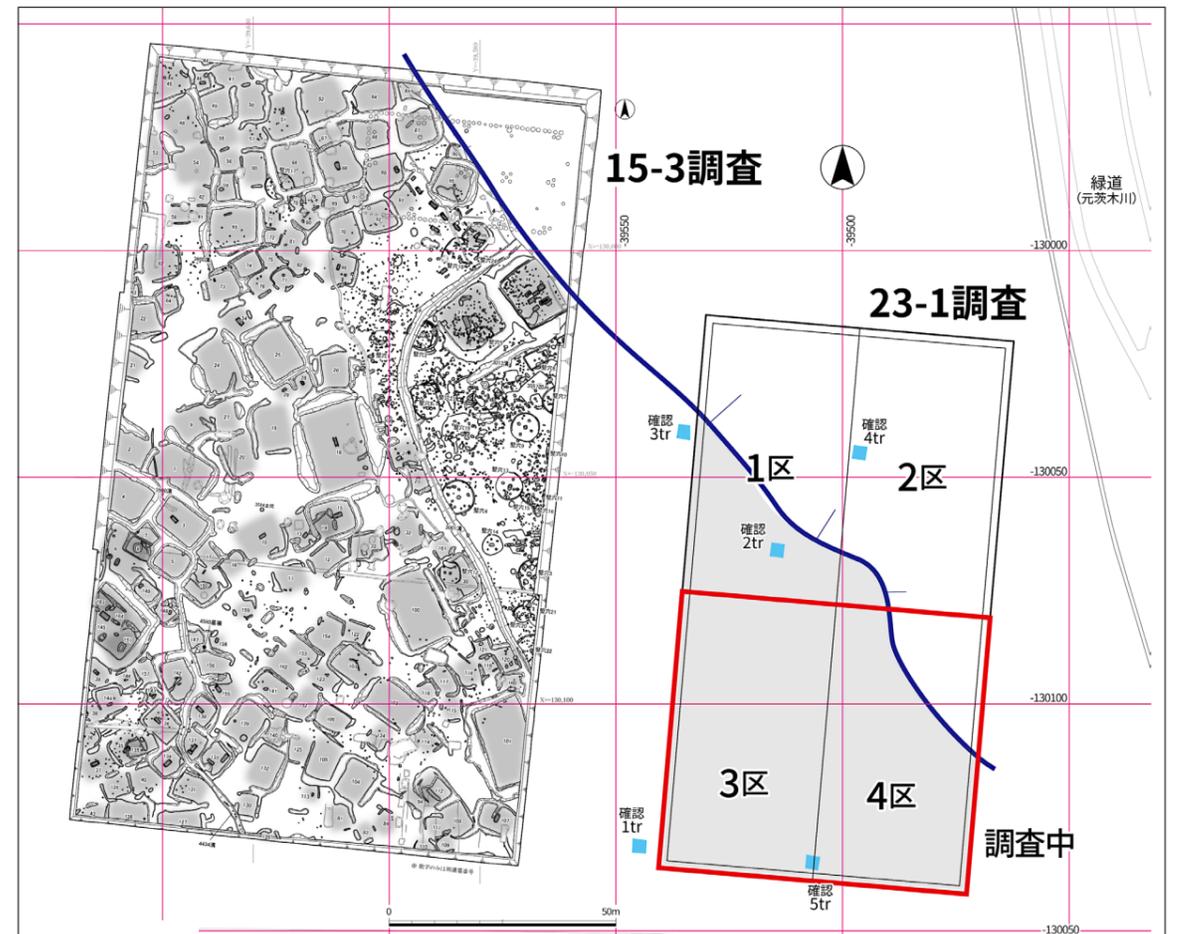
緑色のガラス玉、左側の一目盛は 1mm。

— 展示のご案内 —

茨木市立文化財資料館にて、木棺墓群から出土したガラス玉を展示します。

7/13 (土)から7/29 (月)まで

※文化財資料館についてはホームページをご覧ください。



既往調査区 (15-3 調査) と今回の調査区 (23-1 調査) の関係



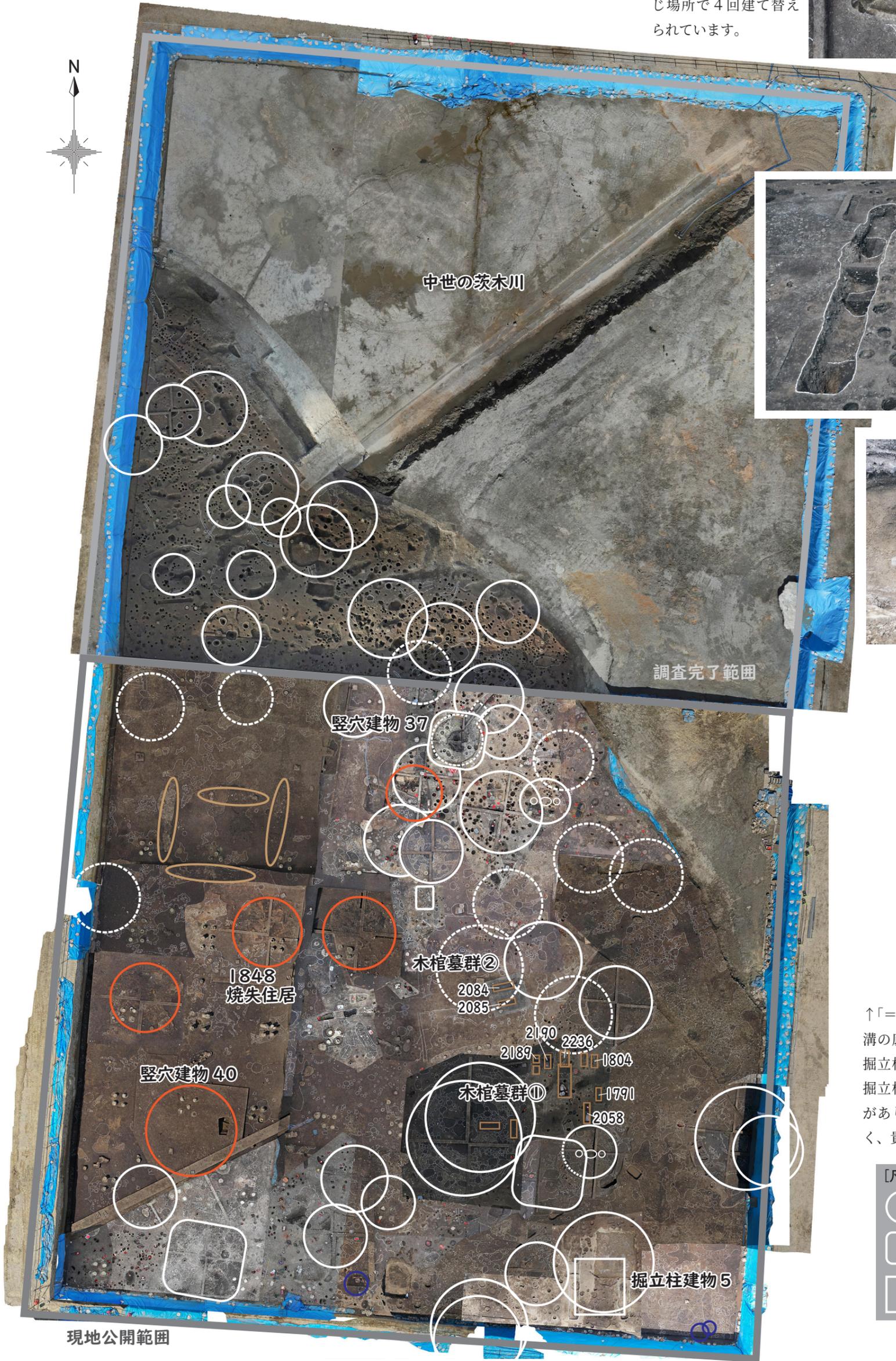
1848 焼失住居（北から）

←焼失住居が5棟見つかりました。垂木材や柱材が明瞭に残存しており、屋根材と思われる草本類が炭化したものも認められます。

→平面円形の竪穴建物に張り出し部がつく竪穴建物が見つかりました。この建物は、平面方形へと形を変え、同じ場所で4回建て替わられています。



竪穴建物 37（上が北）



掘立柱建物5（南から）



掘立柱建物5 1640 柱穴（東から）



掘立柱建物5 1640 柱
柱の直径は約 35 cm です。

↑「=」字のように溝状に布掘りをしたのち、溝の底からさらに壺掘りをして、柱を建てた掘立柱建物が見つかりました。布掘りを伴う掘立柱建物で、地中に梁を入れていた可能性があります。近畿地方ではほとんど類例がなく、貴重な事例になります。

[凡例]

	平面円形竪穴建物 (橙色は焼失住居)		井戸
	平面隅丸方形竪穴建物		周溝墓?
	掘立柱建物		木棺墓

現地公開範囲

